

(様式2)


2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【 御前崎市立浜岡北小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ <b>III</b> ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	第2校時 全校児童170名 第3校時 4年生25名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 総合的な学習 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	2021年に行われる東京2020オリンピック、パラリンピックをきっかけにしてパラリンピックについて詳しくなろうと投げかけ、学習を進める。実際に体験したり観たりする中で、障がいのある方とのふれあいを通し、その方たちの思いを知り、自分たちにできることはないかと考えさせたい。
5 取組内容	事前学習 4年生の総合的な学習において、福祉教育を行った。 パラリンピックについての学習やゴールボールの体験などを通して、福祉についての理解を深めてきた。  当日 ①山本選手による講演 「挑戦」することの大切さを子ども達に伝えていただいた。 高校時代に足を失ってしまったが、「もう一度スポーツがしたい」という思いから、様々なことに挑戦したことや好きなことを見つけ一生懸命取り組むことの大切さについて話をいただいた。 

	<p>②義足の着脱・実演  義足の付け方や歩き方について教えていただいた。実際に走る姿を見ると予想以上の速さに驚く姿が見られた。義足を付けたばかりのころには、歩くだけでも難しく何度も転んだそうである。それでもあきらめずにくふうをしながら挑戦を続けることで成功につながることを知ることができた。</p> <p>③4年生の総合的な学習  25名の4年生の質問に答えたり、義足を触らせていただいたりした。児童たちは義足の扱い方に興味津々で、触らせてもらおうと、想像以上の硬さや重さに驚いた。</p> <p>山本選手の「メダルに意味はない。メダルを取るために一生懸命頑張ることに意味がある。」という言葉からは、挑戦することの大切さが伝わってきた。</p> <p>事後指導  山本選手の講演後、子ども達は感じたことや学んだことを振り返った。「義足は思ったより重かった」「色々な競技に挑戦していてすごい」など競技についてだけでなく生活や生き方についての感想を持つ児童もいた。</p>   
<p>6 主な成果</p>	<p>山本選手の考え方や生き方に触れる中で、障がいを持つ方と自分たちとの間に壁はないことを知ることができた。「なぜ足をなくしてもスポーツをしたかったのか」という疑問を持っていた児童も「スポーツが好きだから」という答えから、好きなことに挑戦する気持ちの大切さに気付くことができた。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>御前崎市の隣である掛川市出身のパラリンピアンの方に来ていただくことで、より身近な出来事として捉えることができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>特になし</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>4年生の総合的な学習と関連付けて、講師の方に来ていただけたらありがたい。</p>